

資 料

コロナ禍を「チーム政策」で乗り切る

今 里 佳 奈 子

はじめに

中国武漢で原因不明の肺炎の発生が複数確認されたことを受けて、厚生労働省が注意を喚起したのは2020年1月6日のことである。1月10日にはWHOが新型のコロナ・ウィルスを検出したと発表¹⁾、23日には武漢で「都市封鎖」が始まった。とはいうものの、感覚的には「対岸の火事」だったこのウィルス感染症がにわかに「我が身のこと」と感じられるようになったのは、2月3日に、感染した乗客をのせたクルーズ船が横浜港に入港してからではなかったかと思う。その後、3月にはいると、国内での感染も広がり、卒業式の中止、ゼミ活動の中止、入学式の中止などが五月雨式に決まり、結局、前期の授業は、2週間遅れて開始したものの、全面的に、オンライン授業として行われるという前代未聞の事態となった。

筆者は、政策学部教務主任として、教務委員会、学部執行部、教授会とともに、この間の教務関係の課題に取り組んだ。また、後期に対面授業が開始された後も、フィールドワークや討論会など、様々な「新型コロナウイルス感染症」に由来する教務関係の事案に対応してきた。

2021年1月末現在、わが国は、感染拡大の「第3波」の渦中にあり、京都府においても、緊急事態宣言が発出されている状況で、依然として終息は見えない。しかし、このような経験を何かの形で記録に残しておく必要があるかと考え、本号に寄稿することとした。以下は、政策学部における新型コロナ禍の下での取り組みの概要である。

1. 2020年3月2日～4月6日頃 全学の方針が日々変化するなかで、学部としての方針を決める

2020年3月2日の危機対策本部会議で、当面、ゼミ合宿及びゼミ活動が原則中止または延期と決定されてから、4月6日に前期の授業がすべてオンライン授業となることが決定されるまでの約1ヶ月間は、全学の方針が日々刻々と変わっていく中で、政策学部としてどのように対応していくのかについて、方針を決めて行くのに腐心した1ヶ月間であった。

全学では、危機対策本部会議において、2月28日に卒業式の中止、3月11日に入学式の中止、3月16日に在学生の履修説明会の中止がそれぞれ決定されている。また、3月22日には、教室での授業開始が4月21日へと延期されることが決定されている。とはいっても、当初は、入学式は中止となったものの、新入生の履修説明会や健康診断などは実施が予定されており、また、授業開始は2週間遅れるものの、4月21日からは教室での授業が行われるものと想定されていた。しかし、新年度開始直前の3月30日になり、新入生オリエンテーションなど、各種行事はすべて中止となり、学生証なども郵送されることとなった。そして、4月1日には、再度、授業開始が延期されることとなった。

このようなことから、教務委員会においても、特に、4月以降の行事や講義のあり方について早急に学部としての対応を決めることが必要と考え、3月15日頃から、検討が必要な項目の洗い出しを開始し、教授会構成員からも意見を募るなどしながら、検討作業を続けた。具体的には、「新入生向けの履修説明会等をどうするか」、

主な出来事

2月28日	危機対策本部会議：卒業式中止決定
3月2日	危機対策本部会議：ゼミ合宿・ゼミ活動を原則中止または延期決定。
3月11日	危機対策本部会議：入学式中止決定
3月16日	危機対策本部会議：在学生履修説明会中止決定
3月23日	危機対策本部会議：教室での授業開始を4月21日に延期すると決定
3月30日	危機対策本部会議：新入生オリエンテーション等中止決定
4月1日	危機対策本部会議：教室での授業開始をさらに延期すると決定
4月1日	学部教授会：新型コロナ・ウィルス対応教務委員会提案承認
3月15日頃～ 4月6日頃	学部教務委員会として要検討項目の洗い出しと、要検討項目事項の検討・学部としての方針作成

「基礎演習、CWS 演習、演習、政策実践・探究演習などの演習科目をどう運営していくのか」「大講義室や人数の多い講義科目について、政策学部独自にオンライン授業などをおこなっていくのか」「オンライン授業を行う場合の学生側、教員側の課題」などについて検討を重ね、4月1日の教授会で、政策学部としての方針を決定している。

2. 4月6日～5月11日 全面的なオンライン授業実施に向けた取り組み

その後4月6日には、危機対策本部会議において、前期の全授業がオンラインで行われることが決定された。この会議では、4月7日から順次 manaba を通じて課題提示を行いつつ、様々な形式によるオンライン授業を準備し、5月11日より全学的にオンライン授業を実施することが決定されている。また、4月7日の危機対策本部会議では、教育・研究活動に関する大学への入構が原則禁止とされ、課外活動も禁止されることとなった。また、教育職員は原則在

宅勤務、事務職員は、所定労働時間を短縮するとともに、在宅勤務を強化するものとされた。

この方針を受け、教務委員会では4月6日に対応方針を示すとともに、政策学部では、様々な形で、円滑にオンライン授業を開始できるよう取り組みを進めた。

具体的にこの時期には、基礎演習や政策実践・探究演習（国内）はオンラインでの開講を決定する一方で、CWS 演習、政策実践・探究演習（海外）の不開講を決めている。また、学生の学習環境・情報環境等を把握するために、学生に対してアンケートを行うとともに、オンライン授業を行うための環境を整えるために、オンライン授業を行う教員をサポートする様々な取り組みを行っている。

取り組みは多岐にわたったが、このようなものとしては、まず、FD 研究会を2回開催し、オンライン講義のための研修を行っている（4月15、22日）。また、学部として独自に Zoom との契約を行い、オンライン授業の円滑な実施を目指した。



図1 門扉が閉じられた大学正門（2020年5月撮影）



図2 平日の昼間人っ子一人いない大学（2020年5月撮影）



図3 政策学部 Scrapbox を利用した情報共有

講義動画講習会@4/22 政策学部FD 母さん(達)は夜なべして動画マニュアルをつくってくれた

いちばん簡単な講義用動画の撮り方

初めて動画撮影する人向けにまとめてみました。

zoomのホストも録画もyoutubeアップロードも、すべて初めてやりながら書き込みました。超初心者目線です。

1. 準備

- カメラ・マイク付きのパソコン、またはカメラ・マイクを接続したパソコン
- 明るさ、静寂、背景など、撮影にいい感じの場所
 - 見られたくないもの、学生の興味を引いてしまう面白いものはしまっておく
- パソコンのプライバシー設定を変更
 - 画面共有をしたい場合は、画面収録を許可する
 - ドキュメントフォルダへのアクセスを許可する (動画保存と画面共有のため?)
- 画面共有する場合
 - 見せたいPPTやレジュメなどのファイルを開いておく
- zoomにサインイン
 - 無料アカウントでやりました。4月中はiact.jpアドレスでアカウントを作ると、40分以上の動画も撮影できます。

2. zoomで録画

②録画ボタンを押す

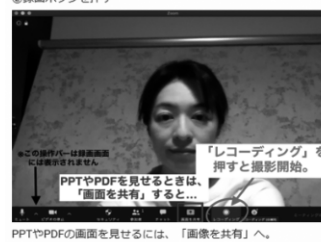


図4 FD研究会での動画講習

さらに、4月8日頃に、教員有志による「龍谷大学政策学部情報化タスクフォース」が立ち上がり、アプリ「Scrapbox」を利用した情報共有と相互サポートが開始している。これは、わからないことや耳寄りな情報を手に入れた教員が自由に Scrapbox 上に書き込み、それに対して、別な教員が自由にコメントを加えていくというものであり、オンライン授業実施上の技術的な問題解決やグッドプラクティスなどの情報共有に大きな力を発した。

また、土山教授と清水准教授が、Zoom と Youtube を利用した簡便な動画作成方法を示した動画マニュアル、「いちばん簡単な講義動画の撮り方」作成し、Scrapbox 上で公開してくれた。この動画作成方法は、FD 研究会でも教授され、動画作成の経験のない教員も含め、教員全員が無理なくオンライン授業に着地するのに大いなる手助けとなった。

主な出来事

4月6日	危機対策本部会議：前期の授業を前面オンラインとすることを決定。
4月6日	学部教務委員会：危機対策本部会議決定を受け、対応方針を提示。
4月7日	政府：緊急事態宣言発出（当初5月6日までの1ヶ月間）。
4月7日	危機対策本部会議：教育研究活動に関する大学への入構を原則禁止。課外活動も禁止。事務職員も所定労働時間を短縮し、在宅勤務を強化するとの決定。
4月8日	学部教授会：CWS 演習、政策実践探究演習（海外）不開講の決定 基礎演習、演習Ⅰ、Ⅱ、政策実践探究演習（国内）はオンラインで開講との決定。ゼミ選択行事の日程について決定
4月8日～6月頃	有志による「政策学部情報化タスクフォース」が立ち上がり、Scrapboxを利用した情報共有と相互サポートが行われる。
4月10日～19日	学生向けオンライン環境アンケートを実施
4月10日～	ゼミ選択方法の検討・オンライン方式の決定
4月10日～4月26日	教員向け、Zoom 等の使用意向調査を実施
4月15日	FD 研究会：オンライン講義への対応について （Webex の概要説明、大学の情報環境について、学生のオンラインアンケート結果、教員のオンライン講義について、著作権について）
4月22日	FD 研究会：土山教授、清水准教授による講義用動画作成講習会「いちばん簡単な講義用動画の撮り方」
5月4日	政府：緊急事態宣言延長（緊急事態措置の延長）発出（5月31日まで）
5月25日	政府：緊急事態終了宣言

3. 4月～6月 ゼミ募集と 前期ゼミの運営

政策学部では、例年、4月中旬に、演習Ⅰ・共通コース募集が開始し、6月にかけて、オープンゼミや個人面接など、丁寧な手続きを経て、2回生学生の所属ゼミ、コースが決定されていく。しかし、2020年度は、これを行うことができなく、どのようにしてゼミ・コース選択の手続きを進めていくのが問題となった。

教務委員会等での検討の結果、2回生全員を集める全体説明会と、ゼミナール連合会主催のゼミ選択懇親会は中止されることになり、全体の手続きも、例年より2週間程度遅らせ、4月29日から開始することが決定された。また、当初は対面での個別説明会なども模索していたが、4月10日頃にはすべての手続きをオンラインで行うという方針を決定し、以後、オンラインでの手続きを進めていくこととなった。具体的には、ゼミ説明冊子の配布は manaba で行うこととし、各ゼミの教員によるゼミ説明についても、ゼミ担当教員全員が動画を作成し、mana-

ba 上に一斉にリンクを公開することとなった。これにより、学生は manaba 上から冊子をダウンロードするとともに、各ゼミの内容を、動画の視聴により、詳しく知ることが可能になった。また、これと合わせて、ゼミナール連合会が、ツイッターやインスタグラムなどの SNS を利用して、各ゼミからの情報発信を、2回生につなぐことになった。慣れない動画作成には苦勞した教員も多かったようだが、各教員の協力を得て、無事にゼミ紹介動画を公開することができた。

また、例年は対面で行われるオープンゼミやゼミ説明会は、Zoom などの Web 会議システムを利用して行うこととなり、各ゼミが工夫してオープンゼミやゼミ説明会を開催した。

合わせて、例年、教務課の窓口に提出していた手書きの申請書類等もすべて、manaba にアップすることとなった。第1次から第3次までのゼミ選択手続きは、下記の通り行われた。

ゼミについても、前期はすべてオンライン開講となった。運営はそれぞれのゼミで工夫していたが、Zoom でのゼミ開講が多かったよう

ある。

「演習Ⅰ」及び「コース」申込み・選考日程について

<2年生対象>

内容	日程	時間	場所	注意事項
政策学部内コース・演習説明	4月29日（水）	15:00 公開	Manaba に動画 「演習ガイド」を アップ	
事前説明会日程発表	4月29日（水）	15:00 公開	Manaba の コースニュース に通知	ゼミナール担当者ごとに開催さ れます。開催しないゼミナール もありますので、manaba 等 で確認して下さい。
【第1次】演習Ⅰ選考方法発表				面接・書類・課題等による第1次 選考に係る基準について発表し ます。
説明会・オープンゼミ期間	4月30日（木） ～5月21日（木）	各ゼミにて時間を設定し、指定する方法にてゼミ情報開示		
【第1次】演習Ⅰ申込み 政策学部内コース申込み	5月22日（金）9:00 ～ 5月25日（月）16:45		Manaba にて受付	★提出書類等については、次頁 「5.「演習Ⅰ」申込時の提出書 類について」を参照
【第1次】演習Ⅰ選考方法詳細発表	5月26日（火）	12:00	Manaba コースニュースに通知	第1次選考の実施場所・方法、 時間等について発表します。
【第1次】演習Ⅰ選考期間	5月27日（水） ～6月2日（火）	各ゼミにて時間を設定し、指定する方法にて選考を実施		
【第1次】演習Ⅰ選考結果発表 【第2次】演習Ⅰ募集ゼミ発表	6月3日（水）	10:00	Manaba コースニュースに通知	
【第2次】演習Ⅰ募集説明会	6月3日（水）	15:00 公開	動画による説明	第2次募集を行うゼミのみ
【第2次】 説明会・オープンゼミ期間	6月4日（木） ～6月10日（水）	各ゼミにて時間を設定し、指定する方法にてゼミ情報開示		
【第2次】演習Ⅰ申込み	6月11日（木）9:00～ 6月12日（金）16:45		Manaba にて受付	★提出書類等については、次頁 「5.「演習Ⅰ」申込時の提出書 類について」を参照
【第2次】演習Ⅰ選考方法発表	6月12日（金）	16:45	Manaba コースニュースに通知	
【第2次】演習Ⅰ選考期間	6月15日（月） ～6月19日（金）	各ゼミにて時間を設定し、指定する方法にて選考を実施		
【第2次】演習Ⅰ選考結果発表 【第3次】演習Ⅰ募集ゼミ発表	6月23日（火）	10:00	Manaba コースニュースに通知	
【第3次】演習Ⅰ申込み	6月25日（木） 6月26日（金）	9:00～16:45	Manaba にて受付	★提出書類等については、次頁 「5.「演習Ⅰ」申込時の提出書 類について」を参照
【第3次】演習Ⅰ選考方法発表	6月26日（金）	16:45	Manaba コースニュースに通知	
【第3次】演習Ⅰ選考期間	6月29日（月） ～7月3日（金）	各ゼミにて時間を設定し、指定する方法にて選考を実施		
演習Ⅰ 最終結果発表 ＜政策学部演習Ⅰに所属する学生全員＞	7月7日（火）	10:00	ポータルサイト Manaba コースニュースに通知	
政策学部内コース所属先発表 ＜政策学部内コースに所属する学生全員＞				

◆学部共通コースの申込日程は、上記と異なる場合もあります。詳しくは、各学部共通コース発行のガイドまたは教学部掲示板で確認してください。なお、学部共通コースの申込みは「教学部」が窓口となります。

◆日程等に変更がある場合には政策学部掲示板にて随時掲示しますので注意してください。



図5 Zoom を利用したゼミ風景

4. 6月20日 オンライン・ホームカミングデー

ところで、2020年度は政策学部発足から10年目にあたることから、各種の10周年事業が予定されていたものの、その多くは延期を余儀なくされた。5月に予定されていた10周年記念ホームカミングデーのイベントも一旦は中止を決定

したが、政策学部同窓会からの、「このような時だからこそ、同窓生、在学生がつながる必要があるのではないか」との問題提起を受け、同窓会との共催で、オンライン・ホームカミングデーを開催することとした。

オンライン・ホームカミングデーの開催に当たっては、同窓会が企画を主導し、卒業生や教員による魅力的な講演や対談の企画を実現する



 RYUSEI HOME COMING DAY 2020			
	Room 1	Room 2	Room 3
09:00	開会式		
09:30			
	9:35-10:35		
10:00	1 龍谷大学政策学部の魅力を知る		
10:30			
	10:40-11:40		
11:00	2 先生から学生への特別メッセージ		
11:30			
	11:50-12:50		
12:00	3-1	3-2	3-3
12:30	先輩とキャリアを考える	先輩とキャリアを考える	先輩とキャリアを考える
13:30	お昼休憩タイム (ゼミ同窓会)		
14:00			
14:30	14:30-15:30		
15:00	4-1	4-2	4-3
15:30	世界とつながる仕事 株式会社アカイノロシ	地域の文化を育てる方法 大森谷屋山保金隊 Rijin	わかりあえなさを超える 株式会社草薙を履いた猫
	15:40-16:40		

16:00	5-1 ソーシャルメディアの未来 村田 和代 教授 × 松浦 さと子 教授	5-2 危機多発時代を生きる 只友 景士 教授 × 石原 凌河 准教授	5-3 社会を支える仕組み 阿部 大輔 教授 × 土山 希美枝 教授	#5
16:30				
17:00	16:50-17:50			
17:30	6-1 学び続ける姿勢を鍛える 中澤 孝文 教授	6-2 アフターコロナを構想する 深尾 昌峰 教授	6-3 持続可能性と私のあいだ 的場 徹 教授	#6
18:00	閉会式			
18:30	# 龍谷政策HCD2020			

3)

図6 オンラインホームカミングデーのプログラム

ことができた。また、運営には、政策学部イベントスタッフ（通称イベスタ）、クラス・サポーター（通称クラサポ）、ゼミナール連合会（通称ゼミ連）、各ゼミが積極的に関わり、成功に大きく貢献した。

当日は、467人の在校生・卒業生が参加した。また、特に、新型コロナ・ウイルス感染症流行のため、大学に通学することさえまならなかった新入生（1回生）に対しては、基礎演習を通じて参加を促し、政策学部教員によるリレートーク・セッションや、卒業生やクラサポとともに行ったワークショップ「政策学部を知る」に多数（138人）の1回生の参加を得ることができた。

リレートーク

入澤 崇学長
大田 直史
阿部 大輔
安 周永
石倉 研
石原 凌河
井上 芳恵
今里佳奈子
碓井 智子

大石 尚子
岡本 健資
奥野 恒久
北川 秀樹
金 紅実
清水万由子
白石 克孝
只友 景士
谷垣 岳人
地頭所里紗
服部 圭郎
深尾 昌峰
松浦さと子
村田 和代
櫻井あかね
土山希美枝

5. 6月～9月 ゼミ、フィールドワークの再開に向けて

5月25日の政府による緊急事態の終了宣言後も全学的にオンライン授業が続いていたが、6月10日の危機対策本部会議では6月19日に、レベル3からレベル2に移行することが、25日の危機対策本部会議では、後期は対面授業を中心

主な出来事

6月10日	危機対策本部：6月19日に「レベル3」から「レベル2」への移行決定
7月1日	学部教授会：「政策学部・政策学研究科における新型コロナウイルス感染防止対策を講じた授業実施のガイドライン〈行動指針「レベル2」対応版〉」決定
9月初旬より	ゼミ、PBL などでのフィールドワーク再開

とすることが決定された。レベル2においては、演習科目や実験・実習科目を条件付きながら対面としていくこととなっていたため、政策学部においても、レベル2に対応した案を作成し、7月1日の教授会で、「政策学部・政策学研究科における新型コロナウイルス感染防止対策を講じた授業実施のガイドライン〈行動指針「レベル2」対応版〉」を決定している。また、続く7月15日の教授会で、開講科目を対面授業とオンライン授業とに分けて実施すること、ゼミ科目については、安全対策を講じた上で、対面事業として実施することなどを決定している。そして、これに沿って、各教員に、後期の授業形態についての希望調査を行った上で、後期の授業形態を決定した（但し紆余曲折あり、授業形態は何度も変更され、後期開始後も変更される場合があった）。

このような中で、特に課題となったのは、政策学部のアクティブ・ラーニング教育の柱でもある PBL 科目や演習におけるフィールドワークをどうするかということであった。学部においては、特に慎重に検討した結果、上述のガイドラインに加え、「政策学部『野外活動安全衛生計画書』安全対策項目（行動指針「レベル2」対応版）を作成し、新型コロナ・ウィルスの感染防止対策のため、新たに、「宿泊場所」、「移動手段」、「地域の受け入れ体制・地域住民との交流」、「活動時間の配慮」、「活動における道具の共同使用」の5項目について、安全対策を講じた上で、野外活動を執行部・教授会で承認することとした。そして、このような事前対策を講じた上で、学外における活動が9月初旬よ

り再開している。

6. 9～10月：対面授業の再開と PCR 検査の開始～基礎演習での初顔合わせ

上述のように、制限が諸々あるなかで、後期の授業が開始した。9月23日には、基礎演習Ⅱで初めての対面授業が行われ、1回生もクラスメイトと初めて顔を合わせることとなった。2～3回生の演習においても徐々に対面授業が始まり、ようやく政策学部らしい風景が見られるようになっていった。

このような中で、依然として、PBL や演習でのフィールドワークは懸案事項となっていた。というのは、学部としてはガイドラインを設け、体調管理に気をつけて学生を地域に送り出す態勢を整えてはいたものの、感染しているかどうかを診断しないまま地域にでていくため、学生が地域で活動するにあたり、地域で感染を広げる事態にならないか、連携先の住民の不信感をうまないか、といったことが依然として懸念されていたためである。このような中で、10月初旬に、政策学部の深尾教授の紹介により民間のPCR検査を利用することが可能になり、検討の上、演習科目及び Ryu-SEI GAP でフィールドワークにでる学生と引率の教員すべての事前 PCR 検査が、10月14日の教授会で決定された。以後、フィールドワークで地域にでる学生・教員は全員が事前に PCR 検査を行うこととなり、2021年2月現在まで、700人の学生・教員が受検し、全員が陰性の判定を受けている。

主な出来事

9月23日	政策学部：基礎演習での対面授業が開始
10月初旬～14日	政策学部：フィールドワークにでる学生・教員への PCR 検査の可能性について検討開始。14日の教授会で演習系科目、REU-Sei GAP でフィールドにでる学生と引率教員全員に PCR 検査を行うこと決定。

7. 10～12月 基礎演習合同討論会、 演習合同討論会に向けて

新型コロナ禍における、2020年度、最大の懸案事項は、12月に控えていた「基礎演習合同討論会」、「演習合同討論会」だったかもしれない。政策学部では、これら「討論会」は、教育上重要な行事と位置づけられているだけでなく、多くの学生にとっても大学生活の中で、最大の行事の一つとなっている。そして、この討論会に臨むために、1～2ヶ月前から、毎日のように集まり、朝から晩まで議論している学生達の姿は、政策学部の風物詩となっている。しかし、

コロナ禍で、多数の学生が一堂の下に会し、討論を尽くす、という討論会は、実現不可能にも思われた。

10月頃より、基礎演習担当者会議、教務委員会、教務委員会とクラサポ・ゼミ連との会議で、議論を重ね、さらに、ライブ配信の経験が豊富な宗教部へのヒアリングなども踏まえ、一応、対面とオンラインの併用方式を第一候補とし、検討を進めることとなった。

11月初旬からは、本格的に対面とオンラインの併用方式の実施に向け、検討と試行が開始した。対面とオンラインの併用方式というのは、具体的には、「発表」と「討論」は、大教室で

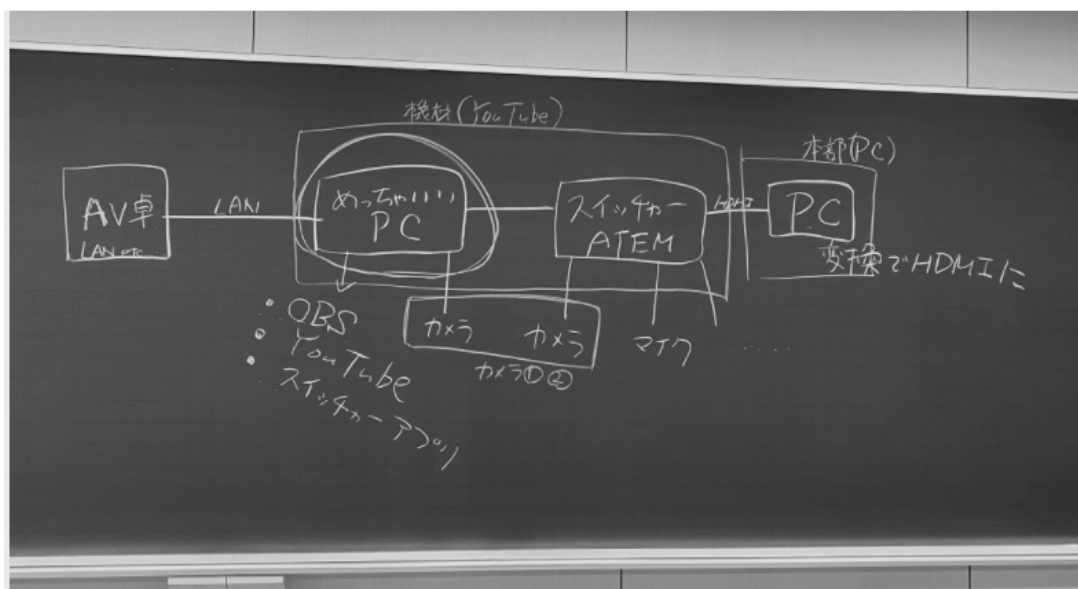


図7 討論会準備風景



図8 会場から動画の配信



図9 2台のカメラを使い動画を配信

対面で行い、この様子を各クラス（基礎演習の場合）、各ゼミ（演習の場合）が待機する教室に、Youtube でライブ配信しようというものである。

しかし、ビデオ2台、PC2台を組み合わせでのライブ配信を3会場同時に行い、かつ、会場と約20の教室との間で双方向でのやりとりができるようにするための技術は、教務委員会に

も教務課にもなく、前途多難と思われる場面もあった。しかし、11月からサポートに入ってくれた龍谷大学の元博士研究員の並木州太郎氏の卓越した技術指導と監修により、実現にこぎつけることができた。機材の選定や購入についてのアドバイス、複雑な配線などもすべて、並木氏の指導に拠った。また、これら準備の過程では、教務課の全面的な協力を得ることができた。

基礎演習合同討論会

- 「発表」と「討論」は、大教室で対面で行う。
- 各クラスの学生は、クラスごとに別々な教室に待機。
- 「発表」と「討論」は、各教室にライブ配信する。
- フロアからの質問は、各教室からチャットで行う。

演習合同討論会

- 「発表」と「討論」は、大教室で対面で行う。
- 「発表」の際には、パワーポイントのスライドを使用する。
- 各クラスの学生は、クラスごとに別々な教室に待機。
- 「発表」と「討論」は、各教室にライブ配信する。
- フロアからの質問は、各教室からチャットで行う。

主な出来事

10月初旬	学部教務委員会：討論会の実施方法を本格的に検討開始
10月27日	学部教務委員会：ライブ配信の経験が豊富な宗教部見学
11月初旬より 12月まで	学部教務委員会：ライブ配信の討論会のための準備・試行作業 並木州太郎氏が技術指導・監修にはいる。
12月5日	基礎演習合同討論会
12月12日	演習合同討論会

さらに、複雑なライブ配信を円滑に行うには、クラサポとゼミ連の協力が不可欠であったが、これら学生からも、準備・試行の段階から積極的な協力を得ることができ、何度も一緒に議論・試行を重ね、実現にこぎつけた。

このようにして、まず12月5日に基礎演習合同討論会を実施した。直前の設営にあたっては、クラサポが、全員参加し、夜遅くまでかかり、準備作業を行った。当日もビデオ撮影、ライブ配信のための機器操作など、並木氏の指導の下に、学生がすべて執り行い、成功裡のうちに終了することができた。

翌週、12月12日には、演習合同討論会が行われた。これについても、ゼミ連と、各ゼミのゼミ長や、ゼミ連会議のメンバーが準備作業を行い、当日の機器操作なども、学生がすべて執り行い、成功裡のうちに終了することができた。

なお、これらすべては、並木氏の監修・指導がなければ到底実現できなかったことであり、あらためて、ここでも心からお礼を申し上げたい。

おわりに

過ぎたことはどんどん忘れていく年齢になっており、この新型コロナ禍のことも思い返す機会はあまりなかったが、本稿執筆のために、記憶と記録をたどりなおしてみること、本当にいろいろなことがあったこと、異常な一年間であったことを改めて実感することとなった。

3月にこの感染症の流行がわが国で本格化した後も、当初は、数ヶ月で終息するような甘い見通しであり、後期には「日常」が戻ってくるようにさえ思っていた。しかし事態は想像を超えて進行していった、というのが、正直なところである。

しかし、このような中でも、教員皆が協力し、教務課とともに、難局を乗り切るために努力を続けた。そして、クラサポ、イベスタ、ゼミ連、各ゼミの学生、同窓生達が、「チーム政策」の一員として学部の教育を支える側に回ってくれた。まことに「チーム政策は強かった」と思うのである。

二つの討論会後、新型コロナウイルス感染症は、再び猛威を振るい始め、1月8日には埼玉

県、千葉県、東京都、神奈川県で、さらに、1月14日には、栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県で、再び緊急事態宣言が発出されることとなった。先の見通せない状況ではあるが、教務委員会では、2021年度に向け、二周目の「コロナ禍」に対応すべく、日々検討を続けているところである。

注

- 1) 厚生労働省 HP https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/houdou_list_202001.html
- 2) <https://ryusei-hcd2020.studio.site/>
- 3) <https://ryusei-hcd2020.studio.site/timetable>